

## 基本計画案に対する議論のまとめ（未定稿）

令和 4 年 2 月 21 日

市民会議 会長

湯沢駅周辺複合施設整備基本計画案のうち、第 1 章「背景と目的」、第 2 章「前提条件の整理」、第 3 章「上位関連計画等の整理」、第 4 章「市民意向」、第 5 章「先行事例」については、既に整理されている内容です。

本資料では、第 6 章以降の内容について、本市民会議におけるこれまで（第 3 回まで）の主な意見を以下のとおり整理しました。

章	市民会議における主な意見
第 6 章 基本コンセプト	(特になし)
第 7 章 導入する機能・ 規模	<p><b>【行政機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市民アンケートにおいて、既存施設の利用者から「古い・狭い・汚い」、「駐車場が狭い」といった課題が指摘されている。新施設では、必要な規模をしっかりと確保し、安全・快適に活動ができる環境を整備してほしい。</li> <li>○各機能の導入にあたっては、現施設での問題点を解決できるようにしてほしい。 例えば図書館の場合、本棚の高さについても、だれもが使いやすいような工夫が必要。</li> <li>○魅力的なサービス展開や管理運営の工夫により、現在の利用者だけでなく新規の利用者を含めて、利用率・来館者数を増やすように努力してほしい。</li> <li>○市民活動スペース（共有スペース）は、ノマドワーカー（決まった場所に滞在せずにパソコン等をもって仕事する場所を転々とする人）などを含めて、多様な方々が活用できる空間にしてほしい。</li> <li>○市民が利用する部屋だけでなく、事務室や倉庫などバックヤード部分も充実させる必要がある。施設で働くスタッフが生き生きしていれば利用者の満足度が高まるのではないか。</li> <li>○本市では若者の流出に歯止めがかかっていないので、人口減少、特に若者の流出抑制につながる施設を整備する必要がある。</li> </ul>

<p>第7章 導入する機能・ 規模</p>	<p><b>【民間機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○民間施設について、公募して民間事業者の提案を待つだけでなく、市が積極的に関与して誘致を実現させてほしい。</li> <li>○民間施設の調査対象は、大手企業だけでなく、市内の事業者からも参入意向などを確認する必要がある。</li> <li>○市が施設を整備して（公設民営）、廉価にテナント貸しする方法も検討してほしい。</li> </ul> <p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○持続可能なまちづくりの観点から、市民はもとより市外からも多くの人が訪れ、本市にお金を落としてもらうことが重要。複合施設がその起爆剤になってほしい。</li> <li>○行政の力だけで街ににぎわいをもたせることには限界があるので、民間事業者や市民と力を合わせて元気なまちにしてほしい。</li> <li>○財政的に厳しいことは理解できるが、市民にとって夢のある、ワクワクするような施設になることを期待する。</li> </ul>
<p>第8章 土地利用計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土地利用計画（施設配置）の検討にあたっては、国道からのアクセスや既存施設（格納庫）との関連などを十分に踏まえる必要がある。</li> </ul>
<p>第9章 施設計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、障がいの有無、年齢、性別、国籍などにかかわらず、すべての人が安全・快適に利用できる環境を整えてほしい。</li> <li>○雨天や降雪時に配慮して、すべりにくい床を整備してほしい。</li> <li>○既存の施設は駐車場が狭く不便なので、新施設では十分な広さの駐車場を確保するとともに、道路からのアクセス性も考慮してほしい。</li> <li>○子育て世代や高齢者などにやさしい駐車場として、「屋根付きの駐車場」を検討すべきである。</li> <li>○駐車場から施設へのアプローチについて、降雪や雨天時における利便性向上の観点から、屋根付きの歩道を検討してほしい。</li> <li>○外構部分の一部に緑地を整備して子どもが自由に遊べる環境を整えてほしい。 子育て世代から「湯沢市には公園が不足している」という声が聞こえてくるので、立派な遊具がなくても「小山」があれば走り回れるのではないか。</li> <li>○イベント広場として利用を想定して外構を整備すれば、にぎわいの創出につながる。</li> </ul>

第10章 事業スキーム	○市が直営で管理するよりも、民間のノウハウやアイデアを生かしている成功事例がたくさんあるので、民間事業者の専門性を発揮できる運営方法を検討してほしい。
第11章 概算事業費	○人口減少下では、今後ますます財政が厳しくなると思われるので、できるだけ無駄を省いた施設整備を心掛ける必要がある。また、将来的なランニングコストについても配慮すべき。 ○素晴らしい施設になればいいとは思いますが、限りある財源の中で、子や孫などの将来世代に大きな負担を残すことは避けなければならない。
第12章 スケジュール	(特になし)
その他	○他自治体の類似する事例を視察（調査）して、本市のニーズや特性に応じた魅力的な複合施設にすべき。 ○不特定多数の利用が想定されるので、防犯機能も充実させる必要がある。 ○事業者を選定する際は、雪国で施工実績のある建設事業者を選んでほしい。 ○住み続けたい街を実現させるためにも、若い年齢層の意見を複合施設に反映させることが重要。 ○市民意見を計画に反映できない場合は、なぜ反映することができないのか、理由を整理して具体的に説明してほしい。 ○市民意見を反映することは重要だが、最大公約数的にまとめてしまうと、どこにでもある施設になってしまう。もっと湯沢の特色を生かして他自治体の施設と差別化できるようにすべきではないか。